

8月15日(火)は発行をお休みさせていただきます。
次号は8月22日の発行になります。

徳島県立農林水産総合技術支援センター
水産研究課海洋生産技術担当

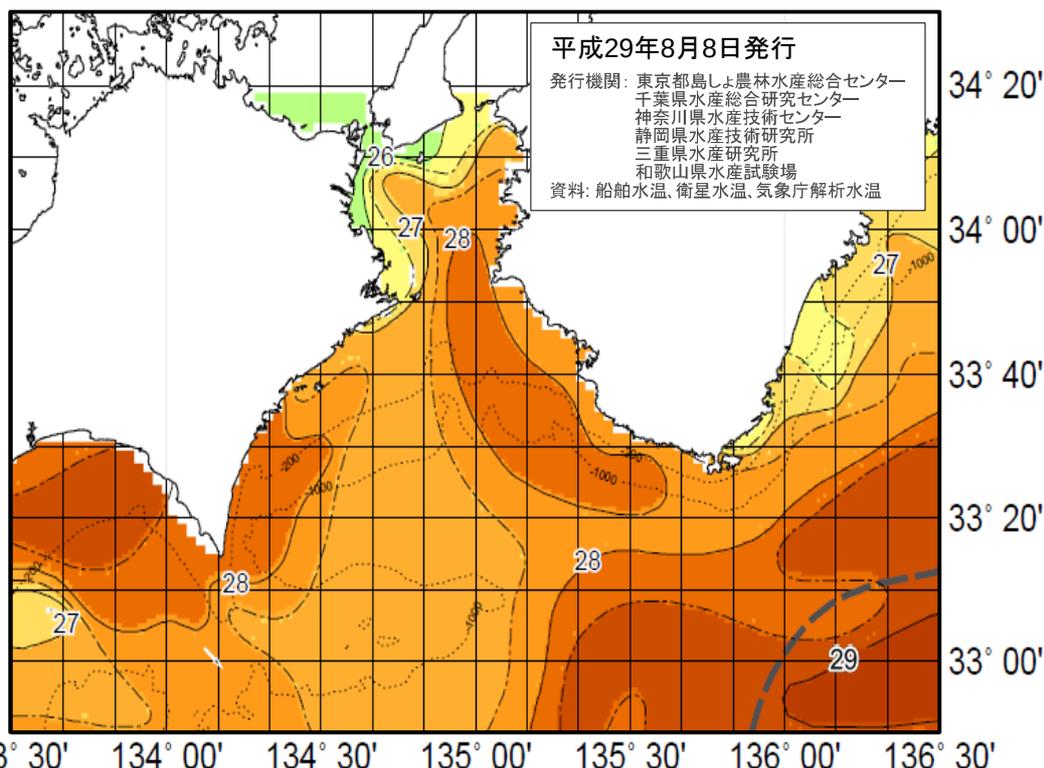
海況

1. 周辺海域の水温

黒潮は、九州東岸から足摺岬では通常の接岸流路に戻ったとみられる。徳島県周辺では、7日までは前号から引き続き、室戸岬沖では「著しく離岸」、潮岬沖で「接岸」で推移していたが、8日には室戸岬沖で「離岸」、潮岬沖で「著しく離岸」となっている。

徳島県沿岸の水温は、播磨灘で25℃台、紀伊水道で25℃～27℃台、海部沿岸で26℃～28℃台となっている。

黒潮本流の表面水温は、平年並みか低めの27～28℃台となっている。

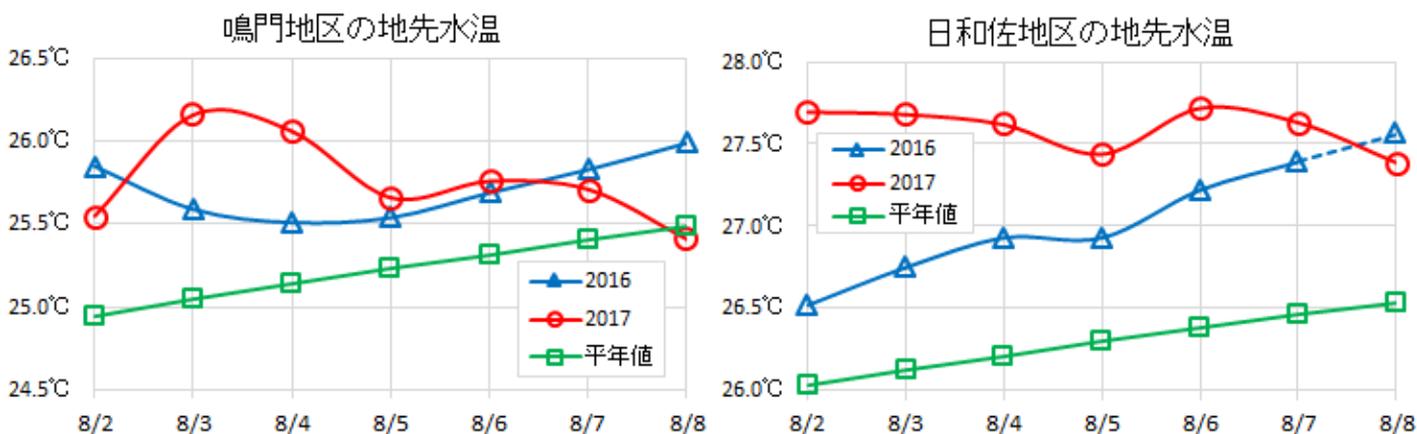


海況図は、平日夕方に水産研究課HPの「地先水温情報」のページに、前日分と当日分を掲載しています。

2. 地先水温(8月2日～8月8日)

鳴門地区の地先水温は、期間前半「やや高め」で25.5℃から26.2℃に上がったが、5日に「平年並み」の25.7℃に下がり、その後25.4℃～25.8℃とほぼ横ばいであった。

日和佐地区の地先水温は、27.4℃～27.7℃とほぼ横ばいで、平年値と比べると期間始めは「高め」であったがその後「やや高め」となった。



※水温の高低 平年並：平年値±0.5℃未満、やや高め/やや低め：平年値±0.5℃以上1.5℃未満
高め/低め：平年値±1.5℃以上2.5℃未満、かなり高め/かなり低め：±2.5℃以上

※平年値 鳴門地区：1981年～2015年の平滑平均値、日和佐地区：1982年～2015年の平滑平均値

3. 週間予報(8月9日～8月15日)

黒潮は、室戸岬沖では「離岸」～「やや離岸」、潮岬沖では「著しく離岸」で推移する見込み。

地先水温は、鳴門地区では「平年並み」～「やや高め」の25℃台後半～26℃台、日和佐地区では「やや高め」～「高め」の27℃台～28℃台前半で推移する見込み。

漁況 2017年7月31日～8月6日（旧暦閏6月9日～6月15日）

1. 紀伊水道(標本漁協数:3)

船びき網では、シラスが減って37ト水揚げされた。

釣りでは、イサキが前週並みの0.4ト、タチウオが減って特大主体に0.2ト水揚げされた。

延縄では、ハモが前週並みの6.0ト、タチウオが減って特大主体に1.5ト、サワラが増えて0.3ト水揚げされた。例年であれば紀伊水道でサワラはほとんど水揚げされない時期であるが、今年は6月下旬から釣りや延縄で週100～200kg程度の漁獲が続いている。

小型定置網では、マアジが増えて小小主体に0.5ト、マダイも増えて小・小小主体に0.4ト、カンパチも増えて0.4ト水揚げされた。

底びき網では、ハモが増えて8.8ト水揚げされた。

2. 海部沿岸(標本漁協数:4)

海部沿岸では、台風の影響で操業日数・隻数が少なく、漁獲量が大幅に減った。

釣りでは、マルソウダが大きく減って0.2ト水揚げされた。

延縄では、カサゴが減って特大主体に0.3ト、アカムツも減って0.2ト水揚げされた。

小型定置網は、台風の影響等で操業がなかった。

漁獲量集計表(漁獲が0.1ト以上のものを抜粋)

海区	漁業種類	出漁隻数 (のべ)	魚種	漁獲量 (kg)		銘柄	前週比※
				漁獲量	1日1隻あたり 平均漁獲量		
紀伊水道	船びき網	69	シラス	37,125	538		↘
	釣り	18	イサキ	399	22		→
		11	タチウオ	163	15	特大主体	↘
	延縄	71	ハモ	5,952	84		→
		64	タチウオ	1,478	23	特大主体	↘
		24	サワラ	330	14		↗
	小型定置網	17	マアジ	499	29	小小主体	↗
		21	マダイ	397	19	小・小小主体	↗
		16	カンパチ	371	23		↗
		17	イサキ	128	8	大主体	↘↘
		16	ブリ	120	7		↘
	底びき網	50	ハモ	8,777	176		↗
30		えそ類	361	12		↘↘	
25		いとより類	106	4		↘↘	
海部沿岸	釣り	13	マルソウダ	195	15		↘↘
	延縄	9	カサゴ	301	33	特大主体	↘
		18	アカムツ	240	13		↘
		7	マサバ	135	19		↗↗

※ 前週比 200%以上:↗↗ 120-200%:↗ 80-120%:→ 50-80%:↘ 50%未満:↘↘